

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 つるぎ町教育委員会 （都道府県 徳島県）

1. 当該地域の情報 （2020年2月現在）

地域の課題	本町内には、夫婦のうちどちらかが在留外国人である家庭が数十件存在している。彼らの大半は婚姻により日本人と家庭を作り、多くは町内外の企業に勤めている。このような本町の在留外国人は、日本語はもちろん、生活の風習や子供の教育などで多くの疑問や悩みを持っていることが報告されている。家族の協力はもちろん、同じ境遇の友人や職場の同僚の協力で何とか解決できる問題もある。しかし、本人の努力だけでは容易に解決できない、日本語の習得や子供の進学・就職・結婚や高齢家族の病気や死亡、相続などの大きな出来事や災害などの非常時への対応について、地域の人々のサポートと体制作りが必要である。
在住外国人数 外国人比率	29人(総人口8,696名) 0.3%
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】フィリピン12人 中国6人 タイ3人 アメリカ3人 韓国2人 インドネシア1人 マレーシア1人 スリランカ1人 【在留資格】永住者18人 日本人の配偶者4人 特別活動3人 その他4人 【滞在年数・在留期間などの状況】 長年(5年以上)本町に住み続けていて,家庭を持ち今後も住み続ける意図がある方がほとんどである。
在住外国人の 日本語教育の現状	以前本町では、外国人を家族として迎え入れた家庭では,家族が日本語や日本の文化,風習を教えていた。また,町内の英会話教室の方々がボランティアで外国人からの相談に応じ、交流を行っていた。本事業1年目には,外国の方と地域住民をつなぐ「多文化共生を考える会『ともに』」が結成され、在住外国人のニーズ調査に基づいて日本語教室が開かれている。現在は定期開催となり,初級と中級のクラスを毎週日曜日の午前中に2時間行っている。家庭の事情等で教室に参加しにくい外国人も多いため,実態に合わせた教室のあり方を模索しながら柔軟に日本語教育を進めているところである。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	多文化共生を考える会「ともに」を主体として、引き続き在留外国人の方たちと語り合う場や日本語を学ぶ場を設ける。たとえば、本町や近隣地域のイベントと絡めて、外国の方が親しみを感じて参加しやすい活動に誘うことによって、コミュニケーションを増やし、日常生活の悩みや、今後の生活の目標や希望を語り合えるような場(おしゃべりカフェ)を作っていく。また引き続き日本語や日本、そして地域の風習・文化についてともに楽しく学べる環境(日本語教室や教材)作りを目指す。			
事業の概要	・事業のスタートアップ 町教育委員会主任が事業の行政コーディネーターとなり、町、県、文化庁や各関係機関、各アドバイザーや各コーディネーターと連携を図りながら事業を進めることを確認。本プログラムへの賛同者を募って活動の周知を行った。在住外国人へのアンケートを実施し、日本語や文化を学習したいという外国人のニーズや情報を集めた。 ・「多文化共生を考える会『ともに』」の結成及び日本語教室の開設 事業の開始と同時に有志によるボランティア団体「多文化共生を考える会『ともに』」が結成された。そのメンバーのひとりである外国人女性をキーパーソンとして在住外国人との関係作りに努め、希望者を募っておしゃべりカフェや日本文化体験活動から日本語教室を始めた。現在は日本語学習を主に週1回定期開催している。また、楽しい雰囲気作りと一人一人のポートフォリオ作りを心がけ、外国人の居場所作りに努めている。 ・徳島大学公開講座「多文化共生のまちづくり」への参加協力 「ともに」会員は徳島大学の公開講座をすることにより多文化共生とは何かを学び、「ともに」の活動に生かしたり,美波町をはじめとする県内他団体との日本語教育に関するネットワークを広げた。 ・日本語教育講演会及び研修会の主催 アドバイザーの先生方の日本語教育講演会を3回開き,多文化共生や日本語の指導法,また最新の外国人施策などについて学び,教室運営に活かした。 ・多文化共生イベントの主催や地域伝統行事への参加 「七夕祭り」などの開催により住民との交流や,多文化共生的な考え方を学ぶ機会を作ったり,「廻り踊り大会」などの地域行事に共に参加して,外国人と地域住民の関わりづくりをサポートしたりした。また,「オデオン座国際プロジェクト」において徳島大学の留学生とともにつるぎ町の史実である「十六地蔵物語」の演劇に学習者も参加して,世界共通の平和への願いを表現し地域に発信することができた。			
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	多文化共生を考える会「ともに」の広報活動(チラシ・学校や企業の訪問) 日本語教室の定期的な実施(週1回) 地域行事への学習者の参加 オデオン座国際プロジェクトへの参加・協力 近隣日本語教室(美馬市、三好市)との情報交換			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	西岡 真弓			日本語コーディネーター
	三隅 友子	徳島大学	教授	システムコーディネーター
	西岡 進	つるぎ町教育委員会	主任	行政コーディネーター
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	西原 鈴子	NPO法人日本語教育研究所	理事長	継続(3 年目)
	内海 由美子	山形大学学術研究院	教授	継続(3 年目)
	財部 仁子	神戸YMCA学院専門学校	日本語学科専任講師	継続(3 年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

①つるぎ町
②つるぎ町教育委員会
③徳島大学

・日本語コーディネーター:西岡 真弓
・システムコーディネーター:三隅 友子
・行政コーディネーター:西岡 進
・多文化共生を考える会「ともに」:地元の有志

多文化共生を考える会「ともに」メンバーが中心となり活動。各アドバイザーから助言をいただき、システムコーディネーターと密な連絡を取りつつ、つるぎ町独自のスタートアップを目指す。徳島県西部拠点としてつるぎ町周辺の活動者ともコミュニケーションをとり、活動視野を広げる。

所属(担当課)	担当者名	職名
つるぎ町教育委員会	西岡 進	主任
多文化共生を考える会「ともに」	西岡真弓	「ともに」会長
徳島大学	三隅友子	教授

(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制

日本語教室の実施に向けて、つるぎ町教育委員会と地元英会話教室等の連携・協力を得ながら体制を整えた。また子育て相談のため、町保健センターの保健師の協力体制もできた。その結果、各幼小中学校の協力で子育て中の母親である外国人が教室に参加し始め、それを皮切りに若い学習者も教室を訪れ始めている。

また、在住外国人とともに日本語教室主催の日本文化体験イベントを行ったり、地域の行事に共に参加したり、徳島大学留学生との交流活動を実施したりした。それは生きた日本語学習となるだけでなく、外国人の居場所作りにも役立っている。このような連携が在住外国人と日本人との相互理解や地域の活性化につながると考えて教室を運営している。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
つるぎ町教育委員会	生涯学習課	主任	西岡 進
多文化共生を考える会「ともに」		会長	西岡 真弓
徳島大学		教授	三隅 友子
貞光中央公民館 半田公民館	貞光中央公民館	館長	緒方 光浩
つるぎ町	総務課		
つるぎ町ボランティアグループ 国際交流部半田地区英会話教室		会長、教室長	美原 茂昭
つるぎ町保健センター		保健師	山根 みさえ

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月	【本年度の計画立案会議】 コーディネーター打ち合わせ アドバイザー(zoom参加)との計画立案会議 「ともに」例会(本年度の全体計画とキックオフ会議の計画)	・コーディネーター打ち合わせ(本年度の計画・キックオフ会議の予定調整) ・アドバイザーとの計画立案会議に草案提出 ・ともに例会(資料準備と会議の進行)	・計画立案会議(zoom参加) 今年度の計画の検討 日本語教室の様々な形 (つるぎ町の実態に合わせて)
2019年 5月	【3年目キックオフ会議】 ・コーディネーター打ち合わせ(学習者参加の演劇について・新しい学習者の状況について相談・ベトナム人の日本語会話練習の見学(zoomにて)) ・3年目キックオフ会議(全アドバイザー・全コーディネーター・教育長・課長・「ともに」) ・ともに例会(日本語教室開催準備・「七夕祭り」準備・zoom使い方指導) ・保健センターとの連携協議 ・徳島大学 人と地域共創センター春夏期公開講座「多文化共生のまちづくり」開始(5～7月) ・新しい学習者との面談・「日本語教室」 ・オデオン座プロジェクト劇「十六地蔵物語」準備(南恩加島小学校と貞光小学校の交流見学)	・コーディネーター打ち合わせ(本年度計画の決定・新しい学習者及び関係者との面談) ・3年目キックオフ会議(資料準備・報告など) ・ともに例会(キックオフ会議計画と準備・日本語教室開催準備・七夕祭り準備) ・出張日本語教室(資料準備と予定調整) ・オデオン座プロジェクト劇準備(学校の交流見学の準備と調整)	・キックオフ会議(zoom参加) ;西原・内海・財部アドバイザー) 2年間の取り組みの検証 本年度の計画決定 今後の日本語教室のあり方 (つるぎ町在住外国人の実情に寄り添う教室を目指して)
2019年 6月	【多文化共生イベント 七夕祭り】 ・「ともに」例会(「七夕祭り」準備) ・「七夕祭り」 ・日本語教室(新しい学習者を迎えて) ・コーディネーター打ち合わせ ・副町長への事業説明 ・留学生との交流活動	・「ともに」例会(「七夕祭り」準備・広報) ・「七夕祭り」(実施と記録) ・日本語教室(日程調整と連絡・教材準備) ・コーディネーター打ち合わせ(日本語教育セミナーの計画) ・副町長への事業説明(資料準備・説明) ・徳大春夏期公開講座協力(「ともに」メンバーと留学生との交流活動のサポート)	
2019年 7月	【日本語教育講演会Ⅰ】 ・ともに例会(教材作り・日本語教育講演会計画) ・コーディネーター打ち合わせ ・日本語教育講演会「生活場面における日本語学習支援①～「わかる」「学ぶ」「できる」を目指して～」(講師;財部アドバイザー) ・「ともに」紹介記事作成(TOPIA機関誌掲載)	・ともに例会(教材作り・日本語教育講演会計画,資料印刷,広報活動) ・コーディネーター打ち合わせ(9月の計画) ・日本語教育講演会(準備・参加者案内) ・「ともに」紹介記事作成(TOPIA機関誌掲載)	★日本語教育講演会(Ⅰ) (財部アドバイザー)兵庫県国際交流協会作成テキスト「できる?できた!!くらしのにほんご」を使って病気になるったときに役立つ日本語学習の支援について学んだ。
2019年 8月	【日本語教育講演会Ⅱ】 ・日本語教育講演会「生活場面における日本語学習支援②～「わかる」「学ぶ」「できる」を目指して～」(講師;財部アドバイザー) ・ともに例会(廻り踊り参加の準備・日本語教育セミナー計画)	・日本語教育講演会(準備・参加者案内) ・廻り踊り大会参加の計画と準備,調整・例会資料作成・教材準備 ・ともに例会(「日本語教育講演会」準備)	★日本語教育講演会(Ⅱ) (財部アドバイザー)災害にあったときに役立つ日本語学習のデザインをグループで討議。
2019年 9月	【廻り踊り大会参加】【日本語教育講演会Ⅲ】 ・日本語教室(ALT)及び「ともに」例会(「日本語教育講演会」準備) ・八坂神社廻り踊り大会参加(浴衣着付け,踊り,住民との交流,TV取材など) ・「日本語教育講演会」(講師;西原アドバイザー・内海アドバイザー) ・アドバイザー招致会議(財部アドバイザーも参加)	・日本語教室(ALTとの顔合わせ) ・ともに例会(講演会資料等の準備) ・八坂神社廻り踊り大会参加(参加者の案内,紹介,着付け,踊り指導) ・「日本語教育講演会」(西原アドバイザー・内海アドバイザー)会場準備 ・アドバイザー招致会議(進行と提案,記録)	★午前～日本語教育講演会Ⅲ 「日本語教育を取り巻く現状-法律改正から発生する問題-」(西原アドバイザー)「地域で日本語教室を始める為に-外国にルーツを持つ人と共生する-」(内海アドバイザー) ★午後～アドバイザー招致会議
2019年 10月	【文化庁情報交換会参加】(ポスター発表 西岡進行政コーディネーター) ・コーディネーター打ち合わせ(文化庁 情報交換会について) ・日本語教室(新しい学習者夫妻面談) ・ともに例会及びコーディネーター打ち合わせ(後半活動計画) ・秋期徳島大学公開講座「多文化共生のまちづくり」開始(10月～12月)	・コーディネーター打ち合わせ(文化庁情報交換会用資料の検討) ・日本語教室(面談・教材準備) ・ともに例会(後半の活動とオデオン座国際プロジェクトの計画)	
2019年 11月	・【日本語教室 毎週日曜日開催に変更】 ・日本語教室 ・ともに例会(オデオン座国際プロジェクトの準備,演劇練習) ・コーディネーター打ち合わせ(中級学習者の指導法・演劇の準備) ・JICA講演会にて発表(つるぎ町の日本語教室についてzoom参加)	・日本語教室(連絡,調整,教材準備) ・ともに例会(学習計画や学習内容検討の資料準備,「オデオン座国際プロジェクト」の「十六地蔵物語」演劇の学習者参加について討議資料の準備) ・コーディネーター打ち合わせ(指導法相談) ・演劇準備(学習者の練習,演劇の広報活動,保存会や原作者等関係機関への協力要請) ・JICA講演会にて取り組み発表(zoom参加)	
2019年 12月	【多文化共生イベント オデオン座国際プロジェクト】 ・日本語教室(日本語学習・クリスマス会) ・ともに例会(オデオン座国際プロジェクト準備・3年目まとめの会議計画) ・コーディネーター打ち合わせ(中級学習者の指導法・西阿波観光圏の連携について) ・オデオン座国際プロジェクト	・日本語教室(連絡,調整,教材準備) ・ともに例会(オデオン座プロジェクト準備) ・コーディネーター打ち合わせ ・オデオン座国際プロジェクト(高校生との交流協力,学習者との交流,関係者案内,講師紹介,記録,準備・片付けなど)	
2020年 1月	・コーディネーター打ち合わせ(オデオン座国際プロジェクト反省・3年目まとめの会議計画・「十六地蔵物語」紙芝居制作について協議) ・日本語教室 ・徳島市立高校1年生と留学生との異文化交流会協力(「十六地蔵物語」演劇や日本語教室「ともに」の紹介)	・コーディネーター打ち合わせ(オデオン座国際プロジェクト反省まとめの会議の計画・準備) ・オデオン座国際プロジェクトの反省 ・ともに例会(3年目のまとめ作業)	
2020年 2月	【日本文化体験活動 こんにやく作り体験】【3年目事業終了会議】 ・日本語教室(地元高校生・大学生の見学と交流) ・こんにやく作り体験活動 ・ともに例会(3年目のまとめ作業・公民館祭りでの「ともに」活動記録展示準備) ・南恩加島小学校への広報と協力要請活動 ・コーディネーター打ち合わせ(最終報告書検討) ・3年目事業終了会議	・日本語教室 ・ともに例会(3年目のまとめ作業) ・コーディネーター打ち合わせ(まとめ作業・アドバイザーとの協議) ・こんにやく作り体験参加準備と調整 ・3年目事業終了会議(報告書の作成・会議の準備・報告・記録・片付け)	・事業終了会議打合せ(内海・財部アドバイザー:Zoom参加) ・3年目事業終了会議(西原・内海・財部アドバイザー:zoom参加)
2020年 3月	【3年目事業内容報告】 ・日本語教室休止連絡(コロナウィルス感染防止のため) ・ともに例会(Zoom会議:報告書検討・来年度の活動について協議)	・日本語教室学習者及び教室サポーターへの教室休止連絡 ・ともに例会(報告書などの資料作成、zoom会議の準備、会議進行)	

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称			日本語教室「ともに」				
外国人参加者について			学習者[国籍]フィリピン8名(A,B,C,D,E,F,G,H) [属性]日本人の配偶者とその子			参加者数 (内 外国人数)	参加者14名 (外国人学習者8名) (日本人サポーター6名)
開催時間数			28. 5時間		内訳 0.5時間×1回 2時間×13回 3時間×1回		
目標			同じ町の住民として、また未来を担う子どもたちのために、日本語学習や文化体験を通して在住外国人を支援する。				
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2019年5月24日(金) 12:30~13:00	0.5	栄工製作所	3	出張日本語教室 (学習者A,B,Cさん) オリエンテーション	・自己紹介 ・多文化共生イベント「セタ祭り」の紹介	サポーター2名
2	2019年6月23日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	2	(学習者Bさん) 自己紹介	・アイスブレイク ・教室で習いたいこと,今困っていることについて ・自己紹介のための日本語表現	サポーター2名
3	2019年9月1日(日) 12:00~14:00	2	西岡宅	2	(学習者ALT) 自己紹介	・アイスブレイク ・自己紹介(日本で身につけたいこと,体験してみたいこと) ・教室で習いたいこと,今困っていることについて	サポーター3名
4	2019年10月27日(日) 10:00~12:00	2	西岡宅	1	(学習者Dさん) 仕事	・アイスブレイク ・自己紹介(教室で学びたいこと) ・仕事について話すときの日本語表現	サポーター1名
5	2019年11月3日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 家族の紹介	・アイスブレイク ・絵からできた漢字1・数字・記号 ・家族の紹介のための日本語表現	サポーター2名
6	2019年11月10日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 家族の紹介	・アイスブレイク ・絵からできた漢字2 ・家族の紹介のための日本語表現	サポーター2名
7	2019年11月17日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	3	(学習者Dさん) 初級 平仮名片仮名 (学習者E, Fさん) 中級 好きな物	・アイスブレイク 初級 自己紹介 平仮名片仮名 ・中級 絵からできた漢字3 ・好きな物・好きなこと	サポーター2名
8	2019年11月24日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 中級 好きなこと	・アイスブレイク ・方角を表す漢字 ・好きな物・好きなこと	サポーター2名
9	2019年12月1日(日) 13:00~15:00	2	小野コミュニティセンター	4	(学習者D,E,F,Gさん) 世界の平和	・アイスブレイク・自己紹介・平仮名 ・絵からできた漢字4 ・オデオン座プロジェクトについて・十六地蔵物語の劇について	サポーター4名
10	2019年12月22日(日) 13:00~15:00	2	小野コミュニティセンター	2	(学習者Gさん) 初級 片仮名 (学習者Dさん) 中級 金曜日の夜 クリスマス会	・アイスブレイク・片仮名 ・形容詞の漢字 ・食事に関する日本語表現 ・2時間の学習が終了した後、クリスマス会を催して楽しんだ。	サポーター5名
11	2020年1月26日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 中級 外出するときは	・アイスブレイク ・動詞の漢字 ・外出に関する日本語表現	サポーター2名
12	2020年2月2日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 中級 外出するときは	・アイスブレイク ・組み合わせ漢字1 ・外出に関する日本語表現	サポーター3名
13	2020年2月9日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	1	(学習者Dさん) 中級 誘う,すすめる,申し出る	・アイスブレイク ・組み合わせ漢字2 ・誘う,すすめる,申し出るための日本語表現	サポーター2名
14	2020年2月16日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	2	高校生と交流学習	・アイスブレイク ・高校生に自己紹介(自分の母国・家族・趣味・希望) ・平仮名・誘う,すすめる,申し出るための日本語表現	サポーター3名
15	2020年2月23日(日) 10:00~12:00	2	小野コミュニティセンター	2	(学習者Hさん) 初級 平仮名 (学習者Dさん) 中級 私のしたいこと	・アイスブレイク・平仮名 ・季節を表す漢字 ・わたしのしたいことを表現する日本語	サポーター3名

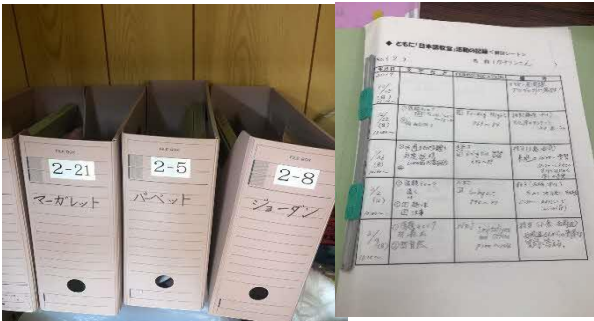
【主な活動】



12/22漢字の宿題に赤丸をつけているところ。「会話力はあるので漢字学習に力を入れたい」という学習者の希望に応じて毎週漢字練習の宿題を出している。



2/16協町高校の「SDGs探求チーム」が在住外国人の日本語学習の様子を見学。高校生と学習者が互いに自己紹介などをして交流した。



11/3～学習者は毎回の学習終了後に学習内容と感想を簡単に記録。指導者は学習内容と励ましの言葉を記入。一人一人のポートフォリオを残すことで学習の継続性が維持できるようにしている。

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
徳島大学公開講座 「多文化共生のまちづくり」	2019年 5～7月 10回 10～12月 9回	日本語教室での指導者がいないという課題を受けて、継続的な日本語指導体制を構築するために、コーディネーターに依頼し、日本語指導者を育成した。また、コーディネーターの育成及びサポーターたちへのフィードバックを行った。 【内容】日本語でのコミュニケーションを見直し、地域で生活する外国人学習者がどのように日本語を学ぶのか、そしてその支援から始めて「多文化共生のまちづくり」を実践していく。 (春夏期:全10回 1回2時間 火曜日) 第1回:オリエンテーション 第2回:日本語のコミュニケーション 第3回:身体的コミュニケーション(インプロヴィゼーション) 第4回:多文化共生のために 第5回:日本語を学ぶ① 学ぶ内容 第6回:日本語を学ぶ② 学ぶ方法 第7回:日本語を学ぶ③共に学ぶ 第8回:美術館で留学生と対話する 第9回:美術館での活動振り返り 第10回:まとめ (秋期:全9回 1回2時間 水曜日) 第1回:オリエンテーション 第2回:日本語のコミュニケーション(聞く・話す・見る) 第3回:日本語学習と教育、様々な学習者 第4回:地域の日本語学習者調査、インタビューに挑戦 第5回:多文化理解①、ステレオタイプ・偏見・差別の構造 第6回:多文化理解②受け入れる心を育む 第7回:多文化共生イベント作り 第8回:私の地域で取り組みたいこと。発表 第9回:オデオン座国際プロジェクトに参加、にし阿波観光圏の観光を越えた交流を考える
多文化共生イベント「七夕祭り」	2019年6月16日 10:00～12:00(2時間)	町内外の外国人の生きた日本語学習の場として、また、地域住民と外国人との交流の機会として、多文化共生イベント「七夕祭り」を実施。日本語で名前や願い事を書く、自己紹介をする、お話を聞く、歌詞を読んで歌を歌う等の四技能の言語活動を入れて「学習」と「交流」の両方が盛り込まれた楽しく意義のあるイベントとなった。住民もお年寄りから幼児まで、近隣の市町村の方も参加して笑顔あふれる楽しい雰囲気であった。 主な活動 ①名札作り②自己紹介③紙芝居「たなばたさま」④願い事を短冊に書く⑤飾り作り⑥歌「たなばたさま」⑦会食 半田素麺⑧クイズ「チョコちゃんに叱られる」
地域の祭り「八坂神社廻り踊り大会」に参加	2019年9月7日 15:30～20:00(3.5時間)	つるぎ町内各地域に伝わる「廻り踊り」は地域独自の踊り方や音頭を伝える貴重な伝統文化である。近年踊りや音頭の担い手のほか若者の参加も減少している現状がある。有名な「阿波踊り」とはひと味違った、つるぎ町に残ったこの踊り大会に町内外の若い外国人が参加することで地域住民と交流や地域の活性化につながると考え、参加を呼びかけた。在住外国人の他「ともに」メンバーも参加して、地域の伝統文化を体験した。(在住外国人が地域の活性化に寄与する活動としてアドバイザーの視察も行った)当日、在住外国人は浴衣の着付け、踊り練習などの準備をして祭りに参加。初めての浴衣の着付けや提灯の明かりに照らされた境内の様子など日本独特の文化を体験できたことの喜びをTV取材で語っていた。
日本語教育講演会Ⅰ～Ⅲ	2019年7月～9月(3回) Ⅰ 7/26 13:30～16:00(2時間) Ⅱ 8/7 13:30～16:00(2時間) Ⅲ 9/8 10:15～12:15(2時間)	本事業の3人のアドバイザーの方々を講師としてお迎えして、日本語教育講演会を実施した。参加者は、日本語教室支援者、英会話教室関係者、町役場職員、町役場OB、学校関係者などである。講演Ⅰ、Ⅱでは実際の生活場面で使える日本語学習のデザインをグループで作る方法を学んだ。講演Ⅲでは日本語教育の現状について最新の情報と各地の教室の実情を教えていただいた。地域の実態に合わせた教材作りの方法から国の施策や他県の実態まで、多岐にわたる内容を学び大変有意義であった。 講演会Ⅰ、Ⅱ「生活場面における日本語学習支援①②『わかる』『学ぶ』『できる』を目指して」 (講師:財部仁子アドバイザー) 講演会Ⅲ ①「日本語教育を取り巻く現状―法律改正から発生する問題―」 (講師:西原鈴子シニアアドバイザー) ②「地域で日本語教室を始めるために―外国にルーツを持つ人と共生する―」 (講師:内海由美子アドバイザー)
オデオン座国際プロジェクト	2019年12月15日 13:00～16:00(3時間)	徳島大学留学生グループ「とくしま異文化キャラバン隊」と四国学院大学、協町高校、池田高校の学生が交流し、多文化共生の心を学ぶイベント「オデオン座国際プロジェクト」を主催した。特に今年度は、つるぎ町の史実である「十六地蔵物語」の演劇に学習者も参加して、世界共通の平和への願いを表現し、発信することができた。またこの物語の関係者や、地域住民も参加して広く交流することができた。また、日本語教室「ともに」の準会員であるミャンマー人のアウンさんの日本語でのスピーチも好評であった。 内容 1:留学生による国紹介 2:演劇「十六地蔵物語」 3:アウンさんのスピーチ 4:池田高校 観光甲子園PR動画発表 5:協町高校 SSH台湾に向けて発表 6:多文化交流会

【主な活動】



6/16七夕祭り
みんなの願い事や飾りをつるした笹飾りの前で



左 9/7八坂神社廻り踊り大会に参加
右 9/8日本語教育講演会Ⅲ



12/14オデオン座国際プロジェクト
演劇「十六地蔵物語」

5. 今年度事業全体について

進捗状況	昨年度10月より,定期的に日本語教室を開催し現在も継続できている。できるだけ学習者の希望に合わせて教室を実施し,月1回から始めて現在は週1回のペースで行っている。また,多文化共生イベントの開催や町内の伝統行事への参加協力を行っている。
成果	昨年度より,日本語教室の広報活動や在住外国人への声かけを実施してきたことにより,学習希望者も継続的に現れて,定期的に日本語教室を実施している。回数が少なかった時期もあるが,学習者の事情や希望を丁寧に聞き取って,ニーズに沿った教室を目指してきた。現在は毎週日曜日の10時から,2時間コミュニティセンターで行っている。 また,「七夕祭り」や「オデオン座国際プロジェクト」などの多文化共生イベントを主催したり,地域の伝統行事への参加,協力を呼びかけたりして,生きた日本語を学ぶだけでなく同じ地域住民の1人として在住外国人も所属感が感じられるような活動を実施した。これらの活動の広報により,地域の方々にも活動の状況や意義が理解され始めている。
地域の関係者との連携による効果	地域の祭りである「廻り踊り」の保存会との連携で、過疎化・高齢化により参加者が年々減少する「廻り踊り」に,在住外国人が参加することで、地域の一員としてまた、衰退する祭りへの協力者として認識が広がった。 また,今年はオデオン座国際プロジェクトで地元の史実である「十六地蔵物語」の演劇に学習者も取り組んだ。これも「真光寺」や「十六地蔵保存会」や南恩加島小学校などとの連携を通して実施できた活動である。たくさんの人とつながりながら,世界の平和を願う気持ちを観客に伝えられたことは,学習者や「ともに」メンバーにとっても大きな感動となり,自分への自信につながったようである。この史実を伝え続けてきた保存会の方々も,留学生や日本語教室の協力で「十六地蔵物語」が新しい形で伝えられたことを大変喜んでいる。今後はこの物語を通して町の子供達に多文化共生の心を伝えていかなければならないと感じている。 また幼児をかかえている学習者のため,町の保健センターの保健師さんとの連携もお願いし,講演会や行事への参加をお誘いしている。子どもや家族の病気や発育のことで不安があればいつでも相談できることがわかり,学習者も安心している。 教育委員会では外国人の子ども達の状況について情報交換を密にしている。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(0H) ②体制整備のための調整(69H) ③人材育成のための調整(96H)※「多文化共生のまちづくり」講座20Hを含む。 ④日本語教室開設及び運営のための調整(76H) ⑤教材作成に向けた調整(5.5H) ⑥その他(60H)(具体的な内容:キックオフ会議や終了会議、教材作成のための視察など)
アドバイザーの主な助言	[学習者が減少したときのアドバイス]日本語教室の形にとらわれることはない。出張日本語教室でもよいし,短時間でも良い。それぞれの学習者の事情や希望に合った形と内容で進めるとよい。焦らずに,学習者をつながりを保ち,支え続ける気持ちが大切である。 [学習記録を取りながら進めている教室の方針についてアドバイス]日本語教室が定期的に継続し素晴らしい。一人一人の学習者の学習内容や進度がポートフォリオとして残され効率よく学習が積み重ねられている。 [今後の教室のあり方について]公民館活動として継続できるとのこと,ひとまず安心である。無理をせず今まで通り続けてほしい。
今後の課題	・日本語教室について 日本語教室については、過疎地域のため人口も少なく学習者の数が流動的なので、在住外国人へのさらなる呼びかけを行うことが必要である。また、日本語学習支援者についても同様である。来年度からの日本語教室は町の公民館教室の一つとして実施する。 ・啓発活動について ①児童生徒への多文化共生への理解を進める機会を作らねばならない。 ②地域住民対象の多文化共生的なイベントを開催して啓発を促進したい。 ③広報活動をさらに進める。
今後の予定	・町内の他の分野の活動や、つるぎ町、徳島県西部市町村、県との連携し活動する。 ・本プログラム終了後は公民館教室として活動を続ける。 ・県の国際交流協会と連携の可能性があるので協議を進める予定である。 ・活動によるが、学習者・メンバーの会費制も検討している。 ・様々なソフト事業補助金の中から【多文化共生を考える会「ともに」】に適したものに申請するなど自助努力する。 ・オデオン座国際プロジェクトやその中の「十六地蔵物語」の演劇については,学習者や地域住民が参加できる形を模索していく。

本件担当 ： つるぎ町教育委員会 生涯教育課